

都空連ニュース

WEB版

発行：社団法人東京都空手道連盟

2401号
平成24年7月30日

平成24年度第1回通常総会開く 東京国体へ体制強化を

社団法人東京都空手道連盟は6月16日に日本空手道会館で平成24年度第1回通常総会を開催し、23年度事業報告(案)、同収支決算(案)、24年度補正予算(案)を審議し、異議なく承認した。

冒頭、笹川堯会長は「来年



23年度事業報告(案)、同決算(案)などを審議した第1回通常総会

度はいよいよ日野市で東京国体空手道競技が開催される。良い成績を上げるためにも皆さんの協力が不可欠となる。また、組織としては不祥事などで社会的信用を落とすことがあってはならない。『和を以って貴しと為す』の精神のもと、礼と節をモットーとし、空手道はただのスポーツや武道ではなく、教育であるとの認識をもって指導に当たっていただきたい」と挨拶した。

議事では並木知徳専務理事が「平成23年度事業報告(案)」について提案し、「23年度は今年度の東京での関東大会、25年度の東京国体を控え、審判員の強化を行なった。今年度も東京国体へ向けた審判強化、指導者の育成を行なうので講習会などへの積極的な参加をお願いしたい」と述べる

とともに、24年度は都空連が関東地区協議会の幹事となるうえ、東京国体も控え、多くの事業が重なることから、こうした諸事業に対する理解と協力を求めた。

この後の質疑応答の中で、清瀬市の田中清春氏から「都空連の審判員は、ジェスチャーなどは卓越しているが、試合終了後の挨拶が満足にできていない選手に対する指導が誠に不十分である。講習会でも子どもたちに相手選手に対する最後の礼をきちんとするよう指導されたい」との意見に対し、笹川会長が「責任を持つて指導を徹底させる」と答えた。また、板橋区の高野稔氏が「利益が出ているのなら審判や役員に還元したり、講習会の費用を安くするなどしてほしい」との意見に、笹川会長は「都空連の財産は利益を追求して出したものではなく、会員の理解を得ながら、貯めてきた積立金である。使うべき時には使うが、これまで通り『奉仕の精神』を持って、経費の節減に理解をいた

だきたい」と述べた。

続いて、今井経理部長が「平成23年度収支決算(案)」について説明し、23年度は東日本大震災の被災者への義援金や国体視察団の派遣、一般社団法人への移行作業などで予備費が大幅に増えたことなどについて説明した。

この後、島野専務理事が「平成24年度補正予算(案)」について、「予算の管理費支出の中の事務所職員費が増加しているのは本連盟の業務が著増していることを踏まえて、専従の事務職員を置くこととしたため、年間で240万円を計上した」と説明した。

最後に島野専務理事が「本連盟の一般社団法人への移行にあたり、定款の改定をする必要があるが、それには総会で決議が必要となる。いずれ定款の改定案を審議するため臨時総会を開催しなくてはならない。その時には、多くの常任正会員の出席をお願いしたい」と閉会の辞を述べ、総会は終了した。

各地で熱戦展開

都空連関連
大会終わる

5月13日の都民大会空手道競技を皮切りにスタートした都空連関連の大会も7月22日の中学生大会で終了した。今年度は東京武道館が耐震工事のため使用できないため、様々な会場での開催となった。

都民大会は男子の部は江戸川区が港区を下して2連覇、公開競技の女子の部でも大田区が新宿区を破り、2連覇を達成した。

小学生大会では形と組手を併せて2200名を超える選手が集まり、熱戦を繰り広げた。最優秀選手に与えられる笹川杯は小学1年生女子の長谷川杏純選手(港区)が受賞した。

国体予選ともなる東京都大会でも強化選手が上位を占めるなど、関東大会、岐阜国体へ向け順調な仕上がりととなっていることが伺えた。来年度の東京国体での活躍にも期待

が高まる。

中学生・幼年大会では総勢800名超の選手が覇を競い、

関東大会代表選手決まる

8月18日から19日にかけて日野市市民の森ふれあいホールで「第43回関東空手道選手権大会」が開催される。

今年度は東京都代表として開催されることもあり、東京都選手団は絶対に負けられない戦いとなる。

先ごろ、東京都選手団のメンバーが明らかにになり、柳田俊介団長、関口徹監督のもと6連覇を目指し、以下の選手達が戦いに挑む。

- 個人組手 ■ ▽成年男子
軽量級 ▽鳴島由貴 高崎隆至
▽中量級 ▽渡邊大輔 高橋賢吾
▽重量級 ▽香川忠介 香川幸允
▽無差別級 ▽松本拓也 佐藤真輝
▽成年女子 軽量級 ▽小林実希 伊東佑季
▽重量級

笹川杯には中学2年生男子の芝本航矢選手(江東区)が輝いた。

詳しい入賞者は都空連ホームページの「大会結果」を参照のこと。

- 級 ▽椎名舞 廣瀬まり
▽少年男子 ▽末廣哲彦 杉山絹人
▽少年女子 ▽山田沙羅 宮原美穂

- 団体組手 ■ ▽男子 ▽鳴島由貴 高崎隆至 渡邊大輔 高橋賢吾 香川忠介 香川幸允 松本拓也
▽女子 ▽小林実希 椎名舞 廣瀬まり 山田沙羅

- 個人形 ■ ▽成年男子 ▽関根寛和 吉田裕太
▽成年女子 ▽津田温子 岡本沙織
▽少年男子 ▽鈴木達也 櫻井義行
▽少年女子 ▽大矢真末 長野じゅりあ

- 団体形 ■ ▽男子 ▽井川頼人 前田賢昇 平田拓也
▽女子 ▽柴崎暢子 上杉ユミ 早川梨緒

拳声仁話

▼もうずいぶん前の話。今は亡き祖父と話をしていた時のこと、私が空手を学んでいることを知った祖父が「お前、船越さんって知っているか」と聞いてきた。「船越さんって船越義珍先生のこと」と聞き返すと、「よく覚えちゃいないが、そんな名前だったかな」と祖父。そこで空手雑誌に掲載されていた船越先生の写真を見せると「ああ、確かにこの人だ」と言う▼祖父は慶応大学の出身で、その後も慶応高校で教鞭をとった人だった。話を聞くと、大学生のころ、文学青年だった祖父が、「君も本ばかり読んでいないで、何か運動でもやりたまえ」という友人に引

つ張られて、創部したばかりの空手部を見学に行ったという。そこで指導をしていたのが、祖父曰く「小柄だが、がっしりとした体で眼光の鋭い」船越先生だったようだ。結局、祖父は入部しなかったのだが、その時船越先生は「空手とは攻撃のためのものではなく、身を守るためのもの」といったことを話してくれたそうだ▼それから時は過ぎ、90歳を超え、病床にある祖父を病院に見舞いに行った。その時祖父が「空手には形と組手ってえもんがあるだろう。組手になるとどの流派だかわからなくなるが、形を見ればどの流派かすぐわかる。だからお前さんも空手を続けていくなら、形を大事にしなよ。形は自分の空手家としての名刺みてえなものだ」と話してくれた▼私は驚いた。空手道のことなどよく知らないはずの祖父から、そのようなことを聞かされるとは。なるほど今の空手道は組手を見ただけでは、その人がどの流派なのかはわからない。特に若い組手の選手は、自分の流派の形などほとんど知らないという話も聞く▼なぜ祖父が、そんな話をしたのか。今となっては確かめようもないが、もしかしらば、若き日に船越先生から聞かされた言葉なのかもしれない。元来、空手道は「組手」と「形」は車の両輪のようなもののはず。どちらの方が大事ということもない。いわゆる「組手の選手」の皆さんにも形はしっかり稽古してもらいたいと思う。

(K)